

長岡京条坊復原における一考察

辻 純一

1. はじめに

長岡京の条坊は、基本的に平城京型を踏襲したものであるといわれてきたが、その他、条里制を基に施工されたとする説⁽¹⁾や、4条大路に余剰帯を設けて京南部のずれを解消しようとするなど⁽²⁾、様々な条坊の復原案がしめされてきた。しかし、近年の開発増加に伴う発掘調査で条坊遺構の発見が相次ぎ、その成果から『長岡京型』の条坊制を提唱⁽³⁾している。ともあれ長岡京の条坊制の姿が見えつつあるといえる。本稿では、条坊遺構の調査成果（座標値）から、長岡京の条坊を復原しつつ、その特徴をも導きだしたい。

2. 長岡京の条坊遺構と名称

長岡京での条坊遺構は関係者の努力により、すべて条坊遺構に対し座標値が公開されており、整理されやすい状況にあることは非常に有効である。また、経験的に造営尺や造営の方位もある程度の数値を利用しながら条坊遺構に対し考察されている。その数値は1尺=29.6cmであり、造営の方位は第Ⅵ座標系の北に対し東に数分～10分程度の振れである⁽⁴⁾。ところが、造営の振れは、ただ単に道路間の比較などにつかわれるだけで、条坊全体を見通したものには振れが少ないという理由で無視されているのが現状である。つまり、経験的には座標北に対しやや東に振れているだろうと知りながら、最終的に無視しているといえる。ただ、振れが小さいと言っても長岡京全体を考えれば、たかだか4分の振れが1Km先では1.16mの差を生じる。たとえば、振れが座標北に対して東に4分ある場合、左右京の2坊大路付近で同じ東西路を検出し、それが同じⅩ座標値であれば、右京の道路は約2.32m（約8尺）南にあることになる。このため振れは条坊を考える上で非常に重要な要素となり、無視できないものである。

次に東西道路の名称であるが、これも近年の成果から指摘⁽⁵⁾されているように2条大路を二町分北にあげ、従来2条条間大路とされていた道路とすることが最も妥当であり、本稿でもこれに従うこととする。

3. 道路遺構の規模について

道路規模については、基本構造として築地心々間の距離で朱雀大路24丈、2条大路14丈、東西1坊大路12丈、その他の大路10丈、小路4丈としている⁽⁶⁾。また、朱雀大路は築地半から側溝心までを3丈とり、2条大路、東西1坊大路は2丈、一般の大路は1丈、小路は0.5丈としている。ただ、平城京や平安京の2条大路、東西1坊（大宮）大路の例をみれば道路幅自身は長岡京のもの

辻 純一

より大きいか同等であるのに対し、築地半から側溝心の規模は1~1.2丈幅しかない事実からみれば長岡京のものは規模が大きく、その数値には疑問が生じる。次に実際に検出されている道路遺構の規模について考察してみよう。大路規模のものに関しては16箇所を確認しており、側溝心々間の距離が22.6~26.7mを測る。平均値は24.562mで標準偏差が±59cmである。また、路面幅だけをみれば、平均値は23.119m、標準偏差±76cmで、これらの数値から路面幅が7.8丈、側溝心々

道路名	調査機関	調査回数	路面幅	側溝幅
北京極大路	向日市教育委員会	P-154	7.50	1.3 x 1.7
1条条間南小路	財)向日市埋蔵文化財センター	L-260	9.00	1.0 x 1.3
1条大路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	L-118	20.80	1.2 x 2.4
2条条間北小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-139	7.80	0.9 x 1.0
2条条間大路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-139	23.30	1.6 x 1.4
2条条間大路	向日市教育委員会	L-159	23.40	1.4 x 1.2
2条条間南小路	財)向日市埋蔵文化財センター	L-248	6.80	1.2 x 2.0
3条条間北小路	向日市教育委員会	L-163	6.90	1.5 x 0.8
3条条間北小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-123	7.60	1.0 x 1.0
3条条間小路	向日市教育委員会	L-120	6.90	1.5 x 2.5
3条条間小路	財)向日市埋蔵文化財センター	L-196	7.80	1.2 x 1.3
3条条間南小路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	L-151	12.30	1.1 x 1.1
3条条間南小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-104	8.40	1.1 x 0.8
3条大路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	L-242	23.60	1.0 x 1.6
4条条間北小路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	R-83	5.00	0.9 x 0.6
4条条間小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-92	8.30	1.0 x 1.0
4条条間小路	京都府教育委員会文化財保護課	L-2	10.00	3.6 x 1.5
4条条間南小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-9	8.90	1.2 x 0.8
5条条間北小路	向日市教育委員会	L-106	7.60	1.8 x 0.8
5条条間南小路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	L-228	6.70	1.2 x 1.2
6条条間小路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	L-235	23.70	1.5 x 1.2
6条条間小路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	L-216	8.10	0.8 x 1.0
6条条間小路	長岡京市教育委員会	R-96	11.80	3.8 x 2.5
6条条間小路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	R-365	9.70	0.8 x 0.6
6条条間南小路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	L-216	9.30	0.9 x 1.0
6条大路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	L-210	22.80	1.7 x 1.7
7条条間北小路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	R-339	8.20	1.8 x 0.8
7条条間小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-251	9.00	1.0 x 1.0
東4坊坊間小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-174	7.80	1.0 x 1.4
東4坊坊間西小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-174	8.60	0.7 x 1.6
東3坊大路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-99	23.90	1.2 x 1.0
東3坊大路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-104	23.90	0.8 x 1.0
東3坊大路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-133	23.10	1.2 x 1.2
東3坊坊間西小路	向日市教育委員会	L-134	8.00	0.8 x 1.2
東3坊坊間西小路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-122	8.50	1.1 x 1.0
東2坊大路	財)向日市埋蔵文化財センター	L-254	22.60	2.0 x 2.1
東2坊大路	財)向日市埋蔵文化財センター	L-196	22.20	1.6 x 2.0
東2坊大路	財)京都市埋蔵文化財研究所	L-164	23.40	1.7 x 1.6
東2坊大路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	L-87	22.80	1.34 x 2.34
東2坊坊間西小路	向日市教育委員会	L-120	7.20	1.6 x 1.8
東2坊坊間西小路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	L-212	7.30	1.6 x 1.6
東2坊坊間西小路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	L-216	8.50	1.0 x 1.4
東1坊大路	向日市教育委員会	P-210	23.20	1.5 x 1.4
東1坊坊間東小路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	L-226	7.60	1.1 x 0.7
東1坊坊間東小路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	L-252	7.60	1.0 x 1.4
東1坊坊間東小路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	L-176	8.20	1.0 x 1.0
東1坊第2小路	財)長岡京市埋蔵文化財センター	L-204	8.50	0.7 x 0.8
西1坊大路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	R-165	23.80	1.1 x 1.1
西1坊大路	長岡京市教育委員会	R-77	23.00	1.1 x 1.8
西2坊坊間小路	財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	R-194	6.60	1.3 x 2.8
西2坊大路	長岡京市教育委員会	R-90	11.70	0.6 x 1.1

表1 長岡京出土道路規模

単位 (m)

間が8.3丈となる。

小路は29箇所を確認しており、その平均値は側溝心々間で9.162m、路面幅7.976mで各々の標準偏差は±63cmと±81cmになる。これを丈単位に直せば各3.1丈と2.7丈になり、大路は築地心々で10丈（路面幅7.8丈、側溝幅0.5丈、築地半と犬行各0.3丈）、小路は4丈（路面幅2.7丈、側溝幅0.4丈、築地半と犬行を併せ0.25丈）と考えられる。朱雀大路に関しては不明であるが、東西1坊大路は上記の大路の中に入っており10丈幅である。2条大路は北側溝と南側溝が別々に検出されており規模は14丈である可能性が高い。また、これらと異なる規模の道路も存在する。たとえば西2坊大路であるが、この道路は側溝心々間の距離12.6mを測っている。同様のものが4条条間小路や6条条間小路の一部に見られ、6丈の規模が想定される。平安京と道路規模が同様な大路および小路に関していえば、路面幅や側溝幅は長岡京のものがより広い傾向にある。

4. 条坊復原

条坊復原は都城モデルと、実際に検出されている条坊遺構とが最も誤差が少なく合致するような、未知の3つの変数（方位と造営尺および原点）を導き出すことである。この変数を導きだせば各条坊遺構のモデルとの誤差がわかることになり、その誤差が長岡京の本来の条坊の位置を教えてくれるのである。復原作業は107箇所の条坊遺構を対象とし解析作業にはパソコンを用いた。

ここで問題となるのは長岡京の都城モデルであり、従来から言われている平城型では合わないことがほぼ確定しているため、今回は仮想のモデルを作り上げ用いることにした。これは経験的に利用している造営尺（1尺=29.6cm）と造営の振れが座標北に対し3分30秒東を採用し、すでに確定している太極殿心の座標を原点として長岡京座標を仮想し、出土した各条坊遺構の座標を座標変換して長岡京座標で表わし、丈単位で原点からの位置をだし、各条坊に最も近い整数値をあて、これを基に長岡京モデルを構築した。

解析は未知の3変数を近似値として採用し次々に計算させていくもので、20回程度繰り返し計算すれば、落ち着いた数値を導きだせた。結果として造営尺（1尺）=29.583626cm±0.002052cm、振れ=+0度5分0秒（N5'0"E）±13.9秒を得ることができた⁽⁷⁾。原点はX=-117526.285m±0.1156m、Y=-26840.522m±0.1101mである。（原点は朱雀大路と2条条間大路交差点心とした。）全体の標準偏差は±0.8093mである。

5. 長岡京の条坊

長岡京の条坊は近年の成果から発表された論稿⁽⁸⁾があり、整然とした計画に基づき施工されたこととされている。しかしながら、各機関から発表される条坊遺構成果からは整然とした姿を求めることができないようだ。今回の計算から最終結果を見ていくと、同じ道路でも規模あるいは位置の異なるものがあることに気付く。たとえば、6条条間小路は3箇所で見出されているが位置および規模が各々で違うが、築地位置は北か南かのどちらかに合致している。4条条間小路も規模は異なるが北築地では一致している。また、同一道路で施工位置がずれる道路は、2条条間大路・

辻 純一

2 条条間南小路・東 1 坊坊間東小路・東 2 坊大路・東 3 坊坊間西小路・西 2 坊大路・西 3 坊大路の 7 箇所が確認できる。このような例は平城京⁽⁹⁾でも平安京⁽¹⁰⁾でも存在するが長岡京の場合は、その件数が多いように思われる。このような場合にはどの位置が本来の条坊計画の基準になっているのかがわかりにくい。

モデルと比較しながら各条坊道路の位置を見ていこう。

南北条坊について

東西一坊

朱雀大路・・・朱雀大路については詳細は不明であるが右京 161 次調査⁽¹¹⁾で西側溝および西築地を検出している。この値を信じれば、西築地心は道路心から西へ 11 丈にあたる。このため道路幅は 22 丈となる。

東 1 坊坊間西小路・・・明確なものはないが、宮内で宮内道路として東側溝が宮内 153 次調査⁽¹²⁾で検出されている。

西 1 坊坊間東小路・・・279・401 次調査⁽¹³⁾で両側溝が検出されている。両者の数値をみれば、左京の方は東側溝としたものの位置から想定して、道路心が朱雀大路心から東へ 49 丈、右京は朱雀大路心から西に 48 丈の位置にあることがわかる。ただし左京のものは側溝のみの検出であることから、数値的には東側溝ではなく宮内の内溝である可能性が強い。この場合は朱雀大路心から東へ 48 丈ということになり左右京で対称の位置になる。

東西 1 坊坊間大路・・・右京での検出例はない。左京では東側溝を 3 例検出している。この数値をみれば、道路心は朱雀大路心から東へ 91 丈の位置になる。

東 1 坊坊間西小路・・・両側溝が検出されているものが 4 例ある。この成果から道路心は朱雀大路心から東へ 133 丈の位置にある。西 1 坊坊間西小路は詳細不明である。

東西 1 坊大路・・・西 1 坊大路が 2 例、東 1 坊大路が 1 例両側溝を検出している。この外に東 1 坊大路は 4 例東側溝を検出している。これらの成果から道路幅は築地心々で 10 丈幅がもっとも妥当である。その位置は朱雀大路心から東西へ 175 丈の位置に道路心が、東西 180 丈の位置に外側の築地心がくる。また、宮に面するところにおいて甍地と隍の存在はなく画一的に条坊が造られたことがうかがわれる。

これらから、一坊を考察すれば朱雀大路は京の中心より東西 11 丈の位置に築地心がくる。東 1 坊坊間西小路および西 1 坊坊間東小路は、朱雀大路心から道路心が東西 48 丈に位置し、小路であるため道路心から 2 丈ずつ東西にさき、東西の築地心が朱雀大路心から東西 46 丈と 50 丈の位置となり、一町の大きさは 35 丈となる。1 坊坊間大路心は左京の成果から東西 91 丈にあり、大路幅を持つため築地心が朱雀大路心から東西 86 丈と 96 丈の位置になる。このため一町は 36 丈となる。東 1 坊坊間東小路も小路であり、調査の成果から築地心が朱雀大路心から東西 131 丈と 135 丈となり一町は 35 丈となる。1 坊大路の朱雀大路側築地心は朱雀大路心から各 170 丈の位置となり一町は 35 丈となる。このように一筋のみ一町が 36 丈となるが基本的に一町は 35 丈であるといえる。従来、1 坊大路外側側溝心までが 180 丈とされてきたが、外側築地心までが 180 丈である。

東西二坊

東2坊坊間西小路・・・両側溝が4例検出されている。この成果から東2坊坊間西小路の道路心は朱雀大路心から東へ223丈にあたる。

道路名	調査回数	測定地点	X座標	Y座標
東4坊坊間小路	L-174	道路心	-118900.00	-24966.70
東4坊坊間西小路	L-174	道路心	-118900.00	-25100.20
東3坊大路	L-99	道路心	-118825.00	-25240.60
東3坊大路	L-104	道路心	-118160.00	-25240.80
東3坊大路	L-133	道路心	-117915.00	-25241.35
東3坊坊間西小路	L-134	道路心	-117955.00	-25641.40
東3坊坊間西小路	L-122	道路心	-118902.00	-25642.30
東3坊坊間西小路	L-160	西側溝心	-117037.00	-25645.50
東3坊坊間西小路	L-159	西側溝心	-117499.60	-25646.60
東2坊大路	L-100	東側溝心	-117560.00	-25766.35
東2坊大路	L-89	東側溝心	-117330.00	-25766.85
東2坊大路	L-221	東側溝心	-118250.00	-25768.50
東2坊大路	L-160	東側溝心	-117037.00	-25769.90
東2坊大路	L-254	道路心	-117527.00	-25778.57
東2坊大路	L-196	道路心	-118067.34	-25779.16
東2坊大路	L-164	道路心	-118910.00	-25783.70
東2坊大路	L-87	道路心	-119590.00	-25784.30
東2坊大路	L-162	西側溝心	-117801.00	-25790.10
東2坊坊間東小路	L-166	東側溝心	-117384.00	-25914.60
東2坊坊間東小路	L-239	道路心	-119124.00	-25921.94
東2坊坊間小路	L-14	道路心	-117327.68	-26050.82
東2坊坊間小路	L-22・51	道路心	-117866.00	-26051.37
東2坊坊間西小路	L-120	道路心	-118100.00	-26182.23
東2坊坊間西小路	L-212	道路心	-119580.00	-26182.50
東2坊坊間西小路	L-222	西側溝心	-116640.00	-26185.50
東2坊坊間西小路	L-216	道路心	-119715.00	-26185.65
東1坊大路	P-125	東側溝心	-117130.00	-26307.90
東1坊大路	L-257	東築地心	-118500.00	-26309.35
東1坊大路	L-125	東側溝心	-119150.00	-26312.20
東1坊大路	L-258	東側溝心	-118861.20	-26312.32
東1坊大路	P-210	道路心	-117300.00	-26321.20
東1坊坊間東小路	L-226	道路心	-118503.00	-26448.00
東1坊坊間東小路	L-252	道路心	-118537.00	-26448.01
東1坊坊間東小路	L-176	道路心	-119309.00	-26449.20
東1坊坊間東小路	L-204	道路心	-120060.00	-26450.90
東1坊坊間大路	L-228	東側溝心	-119270.00	-26561.38
東1坊坊間大路	L-184	東側溝心	-119924.00	-26563.30
内裏		建物心	-117457.73	-26573.94
内裏		西回廊心	-117503.82	-26650.88
小安殿		建物心	-117540.69	-26840.39
大極殿院西回廊	P-255	西回廊心	-117540.69	-26889.44
西1坊坊間東小路	R-279	道路心	-119805.00	-26986.40
西1坊坊間西小路	R-126	東側溝心	-119860.00	-27238.00
西1坊大路	R-165	道路心	-119725.00	-27361.00
西1坊大路	R-77	道路心	-119785.00	-27361.00
西1坊大路	R-365	西築地心	-119700.00	-27374.60
西2坊坊間小路	R-194	道路心	-119704.00	-27631.38
西2坊大路	R-171	東側溝心	-118150.00	-27894.80
西2坊大路	R-285	東側溝心	-117810.00	-27896.90
西2坊大路	R-90	道路心	-119588.00	-27905.30
西2坊大路	R-12・26	道路心	-119400.00	-27903.80
西3坊坊間小路	R-83	西側溝心	-118865.00	-28171.40
西3坊大路	R-178	東側溝心	-118980.00	-28432.10
西3坊大路	R-105	東側溝心	-118092.00	-28434.00

表2 計算に使用した南北路一覧

東西2坊坊間小路・・・東2坊坊間小路、西2坊坊間小路ともに両側溝が検出されている。各道路心位置は朱雀大路心から東が267丈に西は266丈にある。

東2坊坊間東小路・・・両側溝とも検出されているのは1例のみである。位置関係は朱雀大路心から東へ311丈に道路心がある。西2坊坊間西小路は不明。

東西2坊大路・・・東2坊大路は両側溝を検出したものが4例、側溝のみが4例検出されている。この成果から考察すれば、ある位置から南と北で道路位置にずれが生じていることになる。1条大路以北と3条大路以南は道路心が1丈分西にある。この位置は朱雀大路心から358丈東に位置する。1条大路から3条大路までは道路心が朱雀大路心から359丈東に位置している。

西2坊大路は両側溝を検出したものが2例あるが、側溝心々間距離が各々16.7m⁽¹⁴⁾と13.4m⁽¹⁵⁾であり、長岡京の平均的な大路の規模よりは、かなり小さいといえる。6丈か8丈規模の道路が考えられるが、2条大路以北での検出をまって結論づけねばならないであろう。ただし、道路心の位置は両者とも朱雀大路心から西へ359丈のところにある。

以上から二坊については、1坊大路外側築地心が朱雀大路心から東西180丈にあり、東2坊坊間西小路は調査成果から小路であり朱雀大路心から東西築地が221丈と225丈に位置する。このため一町は41丈となる。2坊坊間小路も小路であり朱雀大路心から東西築地が265丈と269丈に位置する。このため一町は40丈となる。東2坊坊間東小路が、調査成果から小路であり朱雀大路心から東西築地が309丈と313丈に位置する。このため一町は40丈となる。2坊大路は左京では10丈幅、右京では6～8丈幅で検出していることから、左京では東西築地心が朱雀大路心から東へ354丈と364丈に位置する。3条大路以南ではへ353丈と363丈に位置する。このために一町は41丈（40丈）となる。右京については42～3丈となるが、この坊は基本的に一町が40丈である。

東西三坊

東3坊坊間西小路・・・両側溝とも検出しているものが2例ある。その他、3例の側溝を検出している。この成果から東3坊坊間東小路の道路心は朱雀大路心から東へ406丈にあたる。西3坊坊間東小路は不明。

東西3坊坊間小路・・・検出されていない。

東3坊坊間東小路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。道路心の位置は朱雀大路心から東へ494丈のところにある。西3坊坊間西小路は不明。

東西3坊大路・・・東3坊大路は両側溝を検出したものが3例あり、この成果から道路心は朱雀大路心から東へ541丈の位置にある。西3坊大路は詳細は不明であるが、東側溝を2例検出している。その成果から北で検出しているものが1丈分西にずれている。

以上から三坊については、2坊大路外側築地心が朱雀大路心から各364丈（363丈）にあり、東3坊坊間西小路が、調査成果から小路であり朱雀大路心から東西築地が404丈（403丈）と408丈（407丈）に位置する。このため一町は40丈となる。東3坊坊間東小路は、調査成果から小路であり朱雀大路心から東西築地が492丈と496丈に位置する。このため東3坊坊間西小路東築地心から東3坊坊間東小路西築地心は84丈となり坊間小路4丈分を引けば各一町は40丈となる。3坊

大路は東西築地心が朱雀大路心から東へ536丈と546丈に位置する。このために一町は40丈となる。この坊も一町は基本的に40丈となる。

東西四坊

東4坊坊間西小路・・・両側溝とも検出しているものが1例ある。この成果から東4坊坊間西小路の道路心は朱雀大路心から東へ589丈にあたる。西4坊坊間東小路は未検出。

東西4坊坊間小路・・・この道路は左京で両側溝とも検出しているものが1例ある。この成果から東4坊坊間小路の道路心は朱雀大路心から東へ634丈にあたる。西4坊坊間小路は未検出。

東4坊坊間東小路・・・検出されていない。西4坊坊間西小路も検出されていない。

東西4坊大路・・・検出されていない。

この成果から東4坊坊間西小路は朱雀大路心から587丈と591丈に位置し、一町は41丈となる。4坊坊間小路は朱雀大路心から632丈636丈に位置することから、この間の町も41丈となり、この坊は一町が41丈である可能性が強い。

以上東西の坊について未検出のものもあるが、ほぼ条坊設計が読み取れる。一坊は一町を基本的に35丈とし、中央に22丈の朱雀大路があり、4丈の小路と10丈の大路で構成される。二坊および三坊は基本的に一町40丈であり、4丈の小路と10丈の大路で構成される。四坊は一町が41丈で4丈の小路で構成される。4坊大路は未発見のため規模などはわからない。

東西条坊について

北辺坊

北極大路・・・宮内道路として検出している。規模は小路幅である。道路心は2条条間大路心から356丈北に位置する。

北1条条間南小路・・・未検出。

北1条大路・・・未検出。

以上、北辺部の詳細は不明である。

1条

1条条間北小路・・・未検出。

1条条間大路・・・未検出。

1条条間南小路・・・両側溝を検出しているものが1例、南側溝の検出が1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から129丈北に位置する。

1条大路・・・両側溝を検出しているものが2例ある。道路心の位置は2条条間大路心から88丈北に位置する。

この成果から1条条間南小路南築地心から1条大路北側溝心の大きさは（一町）34丈である。

2条

2条条間北小路・・・両側溝を検出しているものが1例と北築地検出が1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から46丈北に位置する。

2条条間大路・・・本稿の計測の基準としている道路である。両側溝を検出しているものが2

辻 純一

例ある。その他、南側溝を2例検出しているが、これらは前述のものより1丈分南で検出している。東2坊大路以西と以東では1丈分ずれている可能性がある。

2条条間南小路・・・両側溝を検出しているものが2例と北築地検出が1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から42丈南に位置する。

2条大路・・・両側溝を検出しているものはない。南側溝としているものが3例、北側溝としているものが1例ある。調査成果から側溝心々間が27.4m以上で40m未満としている⁽¹⁶⁾。検出され

道路名	調査回数	測定地点	X座標	Y座標
1条条間南小路	L-260	道路心	-117146.00	-26154.00
1条大路	L-10・14	道路心	-117268.00	-26120.00
1条大路	L-118	道路心	-117268.00	-25986.00
1条大路	L-89	南側溝心	-117280.00	-25765.00
1条大路	L-130	南側溝心	-117278.90	-25988.00
2条条間北小路	L-139	道路心	-117391.70	-25365.00
大極殿北回廊		回廊心	-117456.64	-26650.88
2条条間大路	L-139	道路心	-117527.30	-25365.00
2条条間大路	L-159	道路心	-117528.40	-25650.00
2条条間大路	L-259	南側溝心	-117542.50	-25801.00
大極殿		建物心	-117529.05	-26840.39
2条条間大路	L-100	南側溝心	-117542.17	-25760.00
2条条間南小路	L-248	道路心	-117651.92	-25762.00
2条大路	R-285	南側溝心	-117799.20	-27893.00
2条大路	L-162		-117804.50	-25800.00
3条条間北小路	L-163	道路心	-117935.20	-26040.00
3条条間北小路	L-123	道路心	-117938.90	-25480.00
3条条間小路	L-151	北側溝心	-118062.80	-25645.00
3条条間小路	L-120	道路心	-118065.24	-26170.00
3条条間小路	L-196	道路心	-118067.34	-25779.16
3条条間南小路	L-151	道路心	-118200.00	-25654.00
3条条間南小路	L-104	道路心	-118200.10	-25191.00
3条大路	R-12・26	道路心	-118329.88	-27893.60
3条大路	L-186	道路心	-118332.84	-26273.50
3条大路	L-242	道路心	-118333.42	-25750.00
3条大路	R-239	南側溝心	-118343.00	-27855.00
4条条間北小路	R-83	北側溝心	-118466.10	-28423.00
4条条間北小路	R-249	南側溝心	-118476.00	-27520.00
4条条間北小路	R-333	南側溝心	-118476.10	-27575.00
4条条間北小路		道路心	-118474.50	-25053.00
4条条間小路	L-119	北側溝心	-118594.30	-26117.00
4条条間小路	L-92	道路心	-118600.80	-25026.00
4条条間小路	L-2	道路心	-118602.00	-26218.50
4条大路	L-258	北側溝心	-118861.20	-26312.32
4条大路	L-273	南側溝心	-118885.26	-26263.00
5条条間北小路	L-106	北側溝心	-119005.10	-26140.00
5条条間小路	R-108	南側溝心	-119147.75	-26551.00
5条条間南小路	L-228	道路心	-119276.40	-26550.00
5条大路	L-235	道路心	-119416.20	-26220.00
6条条間小路	L-216	道路心	-119689.28	-26177.60
6条条間小路	R-96	道路心	-119691.10	-27663.00
6条条間小路	R-365	道路心	-119692.78	-27380.00
6条条間小路	R-314	道路心	-119693.10	-27435.00
6条条間南小路	L-216	道路心	-119823.10	-26220.00
6条大路	L-210	道路心	-119967.60	-25830.00
7条条間北小路	R-339	道路心	-120103.60	-26910.00
7条条間小路	L-251	道路心	-120237.70	-25800.00
7条条間小路	L-200	北側溝心	-120232.43	-26200.00
7条条間小路	L-245	北側溝心	-120231.95	-26634.85

表3 計算に使用した東西路一覧

た側溝の成果からみれば、14丈幅の道路規模が考えられる。道路心は2条条間大路心から87丈南に位置する。

1条大路南築地心から2条条間北小路北築地心までが35丈、2条条間北小路南築地心から2条条間大路北築地までが39丈(40丈)、2条条間大路南築地から2条条間南小路北築地心までが35丈(34丈)、2条条間南小路南築地心から2条大路北築地心までは36丈である。このため、2条は北から35丈+4丈+39丈(40)+10丈+35丈(34)+4丈+36丈+14丈で構成されている。

3条

3条条間北小路・・・両側溝を検出しているものが2例ある。ただし、道路心の測定値には1丈分のずれが見られる。東2坊大路の東と西でずれが生じている可能性が高い。西側の方が1丈分北にある。この道路心の位置は2条条間大路心から138丈南に位置する。

3条条間小路・・・両側溝を検出しているものが2例ある。その他、北側溝を1例検出している。この道路心の位置は2条条間大路心から182丈南に位置する。

3条条間南小路・・・両側溝を検出しているものが2例ある。道路心の位置は2条条間大路心から227丈南に位置する。ただし、左京151次調査⁽¹⁷⁾のものは側溝心々間で13.4mを測り、小路にしては大きい。

3条大路・・・両側溝を検出しているものが3例と南側溝としているものが1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から272丈南に位置する。

2条大路南築地心から3条条間北小路北築地心までが42丈、3条条間北小路南築地心から3条条間大路北築地までが40丈、3条条間大路南築地から3条条間南小路北築地心までが41丈、3条条間南小路南築地心から3条大路北築地心までは38丈である。このため、3条は北から42丈+4丈+40丈+4丈+41丈+4丈+38丈+10丈で構成されている。

4条

4条条間北小路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。ただし、道路規模が側溝心々間で5.8mと狭い。その他、2例の南側溝を検出している。これらの成果から、この道路心の位置は2条条間大路心から320丈南に位置する。

4条条間小路・・・両側溝を検出しているものが2例ある。その他、北側溝を1例、南側溝1例を検出している。左京2次調査で検出しているものは側溝心々間で12.6mと規模が大きい。北側溝と南側溝の検出例もこれを証明している。ただし、左京92次調査のものは小路幅である。これらは規模が違うが、北側溝の位置は一致している。左京2次調査の道路心の位置は2条条間大路心から363丈南に位置する。

4条条間南小路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から407丈南に位置する。

4条大路・・・北側溝・南側溝を検出しているものが1例ずつある。この成果から道路心の位置は2条条間大路心から455丈南に位置する。

3条大路南築地心から4条条間北小路北築地心までが41丈、4条条間北小路南築地心から4条

辻 純一

条間大路北築地までが38丈、4条条間大路南築地から4条条間南小路北築地心までが39丈、4条条間南小路南築地心から4条大路北築地心までは41丈である。このため、4条は北から41丈+4丈+38丈+6丈(4丈)+39丈(41丈)+4丈+41丈+10丈で構成されている。

5条

5条条間北小路・・・左京106次調査で両側溝を検出したとされているが、近年の成果から疑問視されている。溝SD10602は報文では南側溝としているが北側溝または北築地北の宅地内溝である可能性が高い。北側溝であれば、その位置から道路心は2条条間大路心から501丈南に位置することになる。

5条条間小路・・・南側溝として検出しているものが2例ある。ただし、位置が一致していない。

5条条間南小路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から591丈南に位置する。

5条大路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から639丈南に位置する。

4条大路南築地心から5条条間北小路北築地心までが39丈、5条条間北小路南築地心から5条条間大路北築地までは不明、5条条間大路南築地から5条条間南小路北築地心までが40丈、5条条間南小路南築地心から5条大路北築地心までは41丈である。このため、5条は北から39丈+4丈+?丈+?丈+40丈(41丈)+4丈+41丈+10丈で構成されている。

6条

6条条間北小路・・・未検出である。

6条条間小路・・・両側溝を検出しているものが4例ある。右京96次調査⁽¹⁸⁾のものは側溝心々間距離が14.9mと大きい。他の3例は小路幅である。ただし、右京のものは南側溝位置がそろい、左京216次調査⁽¹⁹⁾のものは右京96次のものと北側溝位置がそろい。右京96次の道路心位置は2条条間大路心から732丈南に位置する。

6条条間南小路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から776丈南に位置する。

6条大路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から825丈南に位置する。

5条大路南築地心から6条条間北小路北築地心までは不明、6条条間北小路南築地心から6条条間大路北築地までは不明、6条条間大路南築地から6条条間南小路北築地心までが40丈、6条条間南小路南築地心から6条大路北築地心までは42丈である。このため、6条は北から39丈+4丈+?丈+?丈+40丈(41丈)+4丈+42丈+10丈で構成されている。

7条

7条条間北小路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から871丈南に位置する。

7条条間小路・・・両側溝を検出しているものが1例ある。道路心の位置は2条条間大路心から916丈南に位置する。

これより以南の道路は現在のところ調査をおこなっているが、明確にされていない。6条大路南築地から7条条間北小路北築地心までが39丈、7条条間北小路南築地心から7条条間小路北築地心までは41丈である。このため、7条は北から39丈+4丈+41丈+4丈で7条条間小路までは構成されている。

以上から東西条坊の法則性を見いだせるだろうか。整然とした法則性は考えられない。しかしながら、2条大路以北では一町が40丈を超えるものがなく34~40丈の中で収まる。反対に2条大路以南は一町が38丈より小さいものはなく38~42丈の中で収まる。宮に面するところは、宅地が全体的に小さいことが知れる。

まとめ

以上の結果から次のことがいえる。

南北条坊

1. 1坊は1町が基本的に35丈である。
2. 2、3坊は1町が基本的に40丈である。
3. 4坊は1町が41丈である。

東西条坊

4. 2条大路より北では1町が40丈を超えるものはない。
5. 2条大路より南では1町が38丈より小さいものはない。
6. 2条大路より南の条間小路は6丈幅の可能性もある。

以上から次の特徴をあげることができる。

1. 宮に面する町は小さい。
2. 平城京のように条坊間の大きさが等しいということはない。
3. 平安京のようにすべての町が等しい大きさではない。

以上の結果および近年に発表されている論稿⁽²⁰⁾などから共通に論じられているのは南北方向の条坊を中心に、ある程度の法則性が読み取れることである。各論稿の方法論は別として基本的に南北方向の条坊では、坊単位での宅地東西幅はほぼ一定であることが一致した見解であり異論を唱える人は少ないと思われる。これに反し、東西方向の条坊に関しては様々な復原案が提示されているが、いずれもが衆人を納得させるようなものではない。仮に、計画性をもって施工されているならば南北条坊のようにほぼ一致した結論となるが、そうではない。このことは、長岡京の東西条坊が確かな計画性をもって施工されなかったと考えるのが最も妥当なのではないだろうか。

ただし、道路施工における規模に関する規格性の高さは他の都城以上であることや造営方位、造営尺はどこも同じであることは指摘でき、無計画で施工したものではないことがわかる。都城形態が『平城京型』であれ『平安京型』であれ一坊の大きさは180丈が基本であることに変わりはない。⁽²¹⁾長岡京もそれを踏襲していることは確かで、一坊の大きさは180丈を念頭に施工してい

るが、厳密ではなく地形などの規制により柔軟に対応していることが考えられる。また、宮城に面する坊は小さく、それ以外の地域はやや大きく宮域から離れるほど顕著となる。このことは東西・南北条坊にいえることであり、ある種の法則性とも考えられる。

ともあれ、法則性をもっている南北方向の条坊を重要視していることは確かである。この原因は長岡京の水利事情によるものであろう。南北条坊の側溝で水を制御し条坊を施工しやすいものとし、東西条坊は計画線近くで水利対策に最も適する位置に施工しているためと思われる。

また、条坊の施工自体も京全域におよぶのではなく造成可能な範囲にしか施工していないことがわかる⁽²²⁾。

6. おわりに

筆者は平安京と接する時間が長く、どうしても平安京に愛着を持ってしまう。このために他の都城を軽視する傾向にあることも事実である。特に10年間の命であり、その前後の諸事情を考えれば、造営年数がきわめて限られる長岡京については顕著である。近年、桓武天皇の個人的な背景から長岡京の存在を軽視する論稿⁽²³⁾も見られるが心情的には賛同したくなる気持は強い。

ところで、長岡京の発掘調査は1000件を越え、都城がりっぱに存在していたことは否定できない事実である。また、その調査成果は比較的速やかに公表されるなど、関係機関の努力には頭が下がる。この努力の結果として多くの人々が条坊の在り方に取り組んでこられたが、だれも衆人を納得させる明確な解答をだし得ていないことも事実であろう。これだけの資料がありながら、明確な解答がだせないということは解答となるものがないためだと考えた。条坊の施行面からも長岡京軽視が論じれそうだが、ただ、長岡京の条坊に関しては施行計画の規格性にばかり目が向けられているような気がする。筆者は確かな規格性はないと結論付けたが、基本的に見れば道路施行における規格性（規模に関して）の高さや平城・平安京と同様に宮に面する条・坊間路には大路が配されることなどは教科書どうりとも言えるのではないだろうか。また、坊や宅地単位で見れば、都城の概念を変えるほど大きな規格からのずれは見いだせない。一つ問題があるとすれば、それは宮域の大きさではないだろうか。長岡京の宮域は他の都城の宮域に比べ小さく配されている。同じ権力者が定めた平安京の宮域の一坊間は180丈よりかなり大きくしている事実から考えれば異常とも思える。つまり、大極殿院・内裏の優先的占地と向日丘陵による空間的規制および小畑川の宮域からの排除にあると考えられる。このような事情のために条坊の規格性がないのは、むしろ当然といえる。

平城京が廃され平安京ができるまでには、たかだか10年の年月を経過したに過ぎない。この間に都城の条坊形態は一変すると考えられ、その萌芽は長岡京に見られるとする論がある。しかし、その萌芽は何によってもたらされたものであろうか。平安京の条坊形態は単に宅地の均一化を最重要視しなければならない政治的・経済的な要請によるものと考えられる。

いずれにせよ、平安京の造営精度や土木技術面からみれば、当時の技術者は都城の設計図さえあれば、ほぼ図面どおりに造営することができ、長岡京も設計図どおりに条坊が施行されたと考

えることが妥当であろう。長岡京の条坊設計は条坊の規格性よりは都の迅速な造営と維持を最優先させたと考える。それが長岡京に与えられた政治的使命だったのではないだろうか。

それ以上の論は筆者の力の及ぶところではない。様々な発掘成果がクローズアップされている今、考古学的資料の総合的な分析をとおしての『長岡京』の意義付けをする時期にきているのではないだろうか。今回は条坊の施行面から見た問題提起として筆をおきたい。

註

- (1) 宮原晋一「長岡京における造営規範についての覚え書き」『長岡京古文化論叢』 同朋舎出版 1986年
- (2) 百瀬ちどり「長岡京条坊制小論」『長岡京古文化論叢』 同朋舎出版 1986年
- (3) 山中 章「古代条坊制論」『考古学研究』第38巻 第4号 考古学研究会 1992年
- (4) (3)と同じ
- (5) (3)と同じ
- (6) (3)と同じ
- (7) 内田賢二「長岡京条坊復原のための平均計算」『長岡京』長岡京発掘調査研究所ニュース第31号 長岡京跡発掘調査研究所 1984年 において最初に平均計算がなされ、それを継承している。
- (8) (3)と同じ
- (9) 平城京の場合、東三坊坊間小路で計画方位との偏差を五箇所調査例から報告しているが1～2丈の施工におけるずれと考えるほうが妥当であろう。『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第四六冊 奈良国立文化財研究所 1989年
- (10) 平安京でも春日小路や油小路の一部でこの現象がみられる。すべて1丈の誤差である。
- (11) 松崎俊郎「長岡京右京第161次～右京三条一坊一町・朱雀大路～発掘調査概要」『向日市埋蔵文化財報告書』第17集 向日市教育委員会 1985年
- (12) 松崎俊郎「長岡宮跡第153次～北辺官衙、森本遺跡～発掘調査概要」『向日市埋蔵文化財報告書』第22集 向日市教育委員会 1988年
- (13) 岩崎 誠『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第4集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター 1989年
- (14) 高橋美久仁 他「長岡京跡右京第70次調査概要」『長岡京市文化財報告書』第9冊 長岡京市教育委員会 1982年
- (15) 岩崎 誠「長岡京跡右京第90次調査概要」『長岡京市文化財報告書』第9冊 長岡京市教育委員会 1982年
- (16) 渡辺 博「長岡京跡左京第162次～左京二条二坊十五町、二条条間大路・東二坊大路交差点～発掘調査概要」『向日市埋蔵文化財報告書』第27集 向日市教育委員会 1989年
- (17) 辻本和美「長岡京跡左京第151次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第22冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987年
- (18) 木村泰彦「長岡京跡右京第96次調査概要」『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第1集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター 1984年
- (19) 戸原和人 他「長岡京跡左京第216次・右京第343次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第40冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1990年
- (20) a (3)と同じ

辻 純一

b 鍋田 勇「長岡京条坊制地割計画の再検討（上）（下）」『京都府埋蔵文化財情報』第48・49号
（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1993年

- (21) 平安京の6割を占める坊の大きさは町40丈が4つ、間の小路が4丈で3、両サイドの大路8丈の半分ずつで4丈が2で180丈となる。
- (22) 長岡京左京七条三坊で行われた発掘調査では条坊の施工がおこなわれていないことを、左京五条四坊の調査でも四坊の東半が施工されていないことを確認している。
- (23) 中村修也「平安京遷都論」『京都市歴史資料館紀要第10号 開館10周年記念論集』京都市歴史資料館 1992年